

＜302＞ 学習評価する資料の割合のエッセンスは？

学習評価する資料の割合は、下記資料の「評価の3観点」の学習評価する評価資料とその割合の例を参考にして、割合を決めるがエッセンスになります。選び方やその割合は、授業の実態や技術分野で養いたい資質・能力にふさわしいものにしていきます。

さらに、学習指導する学年、技術分野「内容A～Dの技術」の学習内容や使用する題材によっても、資料やその割合は、異なってきます。

例えば、第1学年で問題を解決する割合が少ない題材の場合は、観点「思考・判断・表現」の学習評価は、学年作品などの割合を少なくして、ペーパーテストの応用問題の割合を多くするなどが必要です。

資料：「評価の3観点」の学習評価する評価資料とその割合の例

主な観点別評価資料の例	観点「知識・技能」の割合	観点「思考・判断・表現」の割合	観点「主体的に学習に取り組む態度」の割合
定期考査(ペーパーテスト) 小テスト(技能テスト)	60 ～ 80%	30 ～ 50%	10 ～ 20%
技術の工夫例のレポート		10% ^{*1}	
ワークシートの記載内容や 題材や授業のふり返し	5～10%	10～30% ^{*2}	50 ～ 60% ^{*2}
設計図・計画表	5～10% ^{*3}	10% ^{*3}	
作品など完成した具体物	10～ 20% ^{*3}	10% ^{*3}	
設計図・計画表と完成 作品との差異 ^{*4}		20 ～ 40%	
他の資料や自己評価	* 5	* 5	10% ^{*5}
教師の観察	* 6	* 6	* 5

備考○* 1は、学習指導要領の内容(1)のイの例です。

○* 2は、学習活動では見えなかった身に付いた学力を、学習活動をふり返ることで「見える化」するものです。

○* 3は、設計図・計画表や作品の出来具合を観点「技能」で学習評価します。しかし、完成度が優れていない場合、「技能」は「C」でも、失敗した理由や原本が客観的に分析し説明できている場合は、観点「思考・判断・表現」は、「B」や「A」になる場合が想定出来ます。

○* 4の差異は、学習活動の時点では見えなかった観点「思考・判断・表現」を設計図・計画表と完成作品などとの差異で「見える化」するものです。

○* 5の自己評価は、様々方法で学習評価した時に、併せて活用します。

○* 6は、作業での工具の使い方などを扱います。「思考・判断・表現」は失敗した時の処理の仕方を、「主体的に学習に取り組む態度」は自分だけでなく友人の知恵を借りたり資料を参考に行っているかなどの評価資料を収集し、客観的な資料を補正する際に用います。補正はできる限り一面でなく＋面で行います。